

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会
第3回 荒川流域エリア・ワーキング

議 事 要 旨

■ 日 時：令和3年7月2日（金） 10：00～12：00

■ 場 所：荒川上流河川事務所 大会議室・Web会議（Zoom）形式併用

■ 議事要旨

1. 「荒川流域エリア・アクションプラン（R2年度 策定）」の確認
・昨年度策定したアクションプラン及び第2回推進協議会の議事要旨の確認を行った。
2. 「荒川流域エリア・アクションプラン」の推進（R3予定等）について
・取り組みの進め方等について意見交換を行った。
3. その他（連絡事項等）
・広報ツールの提供予定の連絡および広報・周知に関する協力依頼を行った。

■ 配布資料

- ・議事次第／WG規約・委員名簿／出席者名簿・配席図
- ・資料1 荒川流域エリア・アクションプラン（R2年度 策定・公表）
- ・資料2 第2回荒川流域エコネット地域づくり推進協議会議事要旨
- ・資料3 令和3年度の取り組み計画に関する意見交換資料

■出席者

構成	団 体 名 等	氏 名
学 識 経 験 者	◎埼玉大学 名誉教授	浅枝 隆
	(公財)埼玉県公園緑地協会 埼玉県こども動物自然公園 副園長	高木 嘉彦
	(公財)東京動物園協会 参与	日橋 一昭
	東邦大学 理学部 教授	長谷川 雅美
団 市 体 民	特定非営利活動法人 鴻巣こうのとりを育む会 代表理事	伊藤 鏗義
	特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク 理事	川島 秀男
関 係 自 治 体	鴻巣市 環境経済部 環境課 課長	長澤 和弘
	桶川市 市民生活部 環境課 係長	荒井 崇志
	北本市 市民経済部 環境課 課長	浦 直樹
	吉見町 環境課 係長	笛木 学
関 係 行 政 機 関	埼玉県 環境部 みどり自然課 主任	玉井 彩加
	埼玉県 農林部 農村整備課 主幹	井野 真人
	埼玉県 県土整備部 河川環境課 主任	北田 寛 (代理出席)
	荒川上流河川事務所 副所長	米沢 拓繁
事 務 局	荒川上流河川事務所 河川環境課 課長	鬼頭 岳彦
	荒川上流河川事務所 河川環境課 河川環境係長	新保 美奈子
※	関東地方整備局 河川部 河川環境課 地域連携係長	橋本 真孝

◎座長 / ※オブザーバー

学識経験者・民間団体 氏名五十音順

1. 「荒川流域エリア・アクションプラン（R2年度 策定）」の確認

○ 事務局

【資料1】荒川流域エリア・アクションプラン（R2年度 策定・公表）、

【資料2】第2回荒川流域エコネット地域づくり推進協議会議事要旨表の確認

→意見なし。

2 「荒川流域エリア・アクションプラン」の推進（R3予定等）について

（1）生物の生息場環境保全に関する重点取り組みプランについて

○ 事務局

【資料3】令和3年度の取り組み計画に関する意見交換資料のうち、「生物の生息場環境保全に関する重点取り組みプランの実施計画」について説明。

○ 荒川流域ネットワーク

コウノトリの餌となるような生物が荒川流域にどれだけ生息しているかをよく把握できていないところはある。これから調査を行い、意識を高めていきたい。

水田調査体験会では、鴻巣市内の田んぼ（水域や畔等）に生物がどれくらいいるかといった調査を行う予定である。

○ 鴻巣こうのとりを育む会

10日ほど前に無農薬の田んぼを中心に生物調査を行った。また、ビオトープの周りのアレチウリやブタクサといった外来種を駆除した。

長谷川先生のご指導で生物調査を行ったが、田植えが終わったばかりの水田は生き物が少なかった。9月ごろに再度調査を行いたい。

ビオトープで外来種除去を行ったが、アレチウリは手に触れるとトゲが痛い。活動時にはどういう服装をしたらいいか、どのようなやり方がいいか皆さんと一緒に勉強しながら外来種対策を進めていきたい。

○ 長谷川委員

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会の定着地づくり専門部会でとりまとめられた知見から、コウノトリの定着に必要な視点についてコメントしたい。

関東地方では、野田市によるコウノトリ放鳥の取り組みが令和3年度で7年目となり、放鳥された個体は10羽を超える。昨年、そのうち1羽が渡良瀬遊水地（小山市）でつがいを形成し、今年も繁殖に成功した。

これまで放鳥されたコウノトリがどこに飛来しているかということ、放鳥拠点である利根運河周辺エリア（江川地区や田中調節池等）のほか、渡良瀬遊水地エリア、利根川河口域の神栖エリアの3箇所に集中している。

残念ながら荒川沿いにはあまり来てないが、野田市放鳥個体をみると、放鳥後数年

は日本各地をめぐるが、5年ほどで放鳥拠点に戻ってくる傾向が明らかになっている。

本年、鴻巣市でコウノトリの放鳥拠点が整備されるが、放鳥から数年後にはその近くである荒川流域に戻ってくるのが期待できる。そのことを見越し、これまでの知見から、コウノトリ採餌ポテンシャルの高い場所はどこになるか整理しておくこと、また、目標を立てて、採餌や繁殖できる場づくりを進めていくことが重要である。

採餌環境が十分であれば複数の個体が集まり、繁殖に至ることが期待されるが、関東に限らず全国でネックになっているのは営巣木の問題である。他エリアでは人工巣塔を建てて対応しているが、埼玉県内の平野部を見ると、古い神社や城址等に古い巨木が残っている。歴史的遺産でもある巨木が営巣地となる可能性を持っているとすれば、その周辺に治水や利水とも調和した採餌環境を構築していくという視点もあるのではないか。

○ 浅枝座長

重要なご意見を頂いた。鴻巣市のあたりにサギ山があったかと思うがどうか。越谷市や見沼田んぼ周辺にもサギ山があったがなくなってしまった。

コウノトリの場合はもう少し大きな木が必要となる。その周辺に無農薬の田んぼをつくるなどの発想があってもよいだろう。

○ 荒川流域ネットワーク

元荒川付近にあったサギ山はなくなり、サギはいなくなってしまう、残念に思っている。

(2) 地域振興・経済活性化に関する重点取り組みプランについて

○ 事務局

【資料3】令和3年度の取り組み計画に関する意見交換資料のうち、「地域振興・経済活性化に関する重点取り組みプランの実施計画」について説明。

○ 事務局

今すぐ採用するロゴマークを決定するというわけではないが、ロゴマークについてのご意見があれば頂きたい。

○ 吉見町

個人的な意見ではC案・D案がスマートでいいのかなと思う。なにか埼玉県らしさ・荒川流域らしさがあるといいかなと思う。

○ 鴻巣こうのとりを育む会

B案のアレンジ案は、絵柄の周りに協議会の名前が書いてあり、ひと目見てわかりやすい。

○ 高木委員

コウノトリの足の色が真っ黒の線となっているが、日本のコウノトリの足は黒色ではなく赤色を帯びている。

○ 事務局

改めて意見照会を予定しているが、メッセージが取り込まれているか・荒川流域らしさがあるか・ネットワークという名前がわかりやすいかといった観点を含めてご意見をいただければと思う。

○ 浅枝座長

以前から気になっていたが、協議会の正式な英語名は無いとみられる。全体会議の際に思いつけば良かったが、荒川流域からうまく提案できればと思う。

この地域は東京に近いため、海外とのつながりを持ちやすい。いわば「東京に一番近い田舎」である。日本は海外の人々から見ると非常に魅力的な場所であり、正式な英語名があると海外へのアピールとなる。

特に自治体委員におかれては、東京に近い自治体としてのメリットを活かすことへもつながると思う。

○ 事務局

エコロジカルネットワーク協議会について、確認した限りでは正式な英語名がないとみられる。英語名について、アイデアや相応しいフレーズがあればこの場でも後日の意見照会の際でもご意見を頂ければと思う。

先程 Google マイマップを使用し地域の特色をまとめていこうと説明させていただいた。一方で長谷川先生から「まだ地域には巨木が残っており、そこを中心として環境の向上を行うという視点もある」というご意見を頂いた。

埼玉県では昨年、巨木の番付を行っており、この地域では上位に入ったものはなかったと思うが、荒川左岸側には大きなクスノキやケヤキがあると思う。

コウノトリはアカマツに住むと聞いたことがあるが、その他の木にも住むだろうか。もしもそうであれば大きな木などもマップに落としていけたらと思うが、いかがだろうか。

○ 長谷川委員

2m近い巣を載せられるスペースを要するため、基本的に大きなマツ類に巣をつくるといわれている。そのため、埼玉県内の歴史的な巨木の中にアカマツやクロマツがあればそれを尊重し、そこでの営巣に導くような施策を考えていけば、日本で初めて自然木へのコウノトリの営巣を成功させることもできるかもしれない。

江戸時代の絵画・資料にはそのような風景が残っているため、再現することができれば、地域の文化的遺産とも連携した自然再生のシンボリックな成果となる。

潜在的な営巣木があるかという観点で周りを見渡していただき「この木がよいな」と思うものがあれば、皆さんに共有していただくのがよいのではないかと。

○ 浅枝座長

お寺の近くには大きな木があったりするが、その辺りにうまく営巣してもらえればと思うがそれはコウノトリ任せである。神社や寺といったポイントも Google マイマップに取り込めると良い。

○ 鴻巣こうのとりを育む会

最近では里山も少なくなった。里山の中には生態系を維持するようないろいろな生物がいるが、それらを大切にしたり保護していくということもエコネットの活動の中に取り込んでいただけたらと思う。

○ 高木委員

コウノトリの営巣木としてマツが注目されているが、ロシアの繁殖地では広葉樹であるシラカバ類にも営巣している。そのことから、コウノトリのような大型の鳥が巣をつくりやすいような巨木であればマツでなくとも巣を作る可能性はあると思う。

(3) 今年度の取り組みの進め方等に関する意見交換

○ 事務局

【資料3】令和3年度の取り組み計画に関する意見交換資料のうち、「その他のプランの実施計画」および「年間スケジュール」について説明。

○ 浅枝座長

資料中に日橋先生によるコウノトリの解説動画の URL の記載がある。
これは日橋先生からの学習支援として動いているということか。

○ 事務局

日橋先生からは、東京動物園協会の運営する「東京ズーネット」の YouTube 動画として情報共有いただいた。日橋先生のご了承が得られれば、こうした情報もプラットフォームに蓄積するなどして皆様と共有していくことも考えられる。

○ 日橋委員

東京動物園協会では、コロナ禍で動物園を開園できていなかったため WEB 上での教育活動を強化しようという観点からいくつか映像を作った。そのうちの一つに多摩動物公園のコウノトリの前で中高生向けの解説を行っているものがあり、紹介させていただいた。

○ 浅枝座長

荒川流域や、より上位のエコネットの YouTube 動画などはないだろうか。

○ 事務局

関東エコロジカルネットワークも含め、そういったコンテンツはまだない。

○ 浅枝座長

お互い紹介・提供し合えば、視聴者は増えるだろう。上手く作られていればブームにもなる。

ゴミ問題に関する情報発信について記載があったが、外に向けた発信はどういう形でできそうか。

最近ではプラスチックごみに関する問題の話題性があり、単なるごみ問題ではなくプラスチックを減らすことや捨てられたプラスチックが東京湾まで流れてしまうといった視点に結びつけて解説していけば地球環境問題にもそのまま結びつく。

荒川は首都圏を流れる河川ということもあり、海外からの注目度も高い東京に近いというキーワードがある。海外からの注目を上手く取り込むことで、地域全体のイメージを上げていくことも考えられる。

そのような観点で考えていくと、注目を取り込むポイントとして、プラスチック問題や CO₂ 関連、水害などの課題がある。

また、日本のコウノトリは海外からはどのような視点で見られているのだろうか。

○ 高木委員

日本のコウノトリは極東の鳥ということで IUCN のトキ・コウノトリ部会の人びとにも興味を持っていただいている。一昨年も豊岡からヨーロッパへ 5 羽ほど繁殖のために送られているほか、豊岡で野生復帰の取り組みが行われていることも成功例として興味深くみられている。これが関東へ今後広がると日本全体のイメージとしても非常に良いことと思われる。

○ 浅枝座長

日本自身のステータスアップに繋がる話である。荒川流域は東京に近く、そうした観点では別のインパクトもあり得る。それをどのようにこの活動に反映していくかというのは改めて考える必要があるが、そうした観点での取り組みのアピールの仕方もあってもいいかと思う。

○ 長谷川委員

日本における自然との共生のシンボルに関する取り組みが首都圏の真ん中で進んでいることをアピールすることはとても大事だと思う。

3. その他（連絡事項等）

○ 事務局

広報ツールについて、ある程度パッケージとしてまとまったら提供するので、各機関においても広報・周知のご協力をお願いしたい。

意見照会様式を追ってメールでお送りするのでご意見を積極的に頂ければと思う。その他、随時新たな情報を提供頂ければと思う。

閉会

○ 荒川上流河川事務所 米沢副所長

多岐にわたるご意見を頂いた。コウノトリが放鳥したエリアにまた戻ってくるという話はまさにこのプロジェクトを進める上で希望が持てるものである。

また荒川流域だけでなく関東平野・海外へ視野を広げる話もあり、取り組みを実行する上で夢を持って進んでいけるような内容だったと思う。

アクションプランを具体的に実行していくためには、本ワーキングのみならず地域の住民の皆様との連携も不可欠である。本日の議論を踏まえ、お示ししたスケジュールをベースに進めていきたいと思うのでよろしくをお願いしたい。

以 上